

取り付け手順

1 給水管内の清掃 配管工事後、必ず給湯・給水管内を清掃してください。

2 止水栓(別売)の取り付け
給湯管と給水管の間隔は100mm程度で取り付けます。水受けタンクまたはトレーを設置する場合は、水受けタンクまたはトレーの寸法をご確認の上取り付けください。止水栓はストレーナ付が最適です。寒冷地用は水抜き栓付止水栓を取り付けてください。

ストレーナ付止水栓 水抜き栓付止水栓

3 部品の取りはずし
本体から図の各部品をはずします。※ 輪パッキン(黒)ははずしません。

キャップ はずす ※ 輪パッキン(黒) はずす
ねじ ハンドル 本体 フランジ 輪パッキン(透明)

4 本体の取り付け

- ① 本体を洗面台内側より、KVKマークが正面を向くように挿入します。
- ② 洗面台表面よりフランジにて固定します。締め付けは、二面幅に合わせてモンキーレンチ等で確実に行ってください。

① 挿入 ② 固定

フランジ 輪パッキン(透明) KVKマーク正面に 本体

5 ハンドルの取り付け
ハンドルをビスで締め、キャップをはめます。キャップは左側が湯側(赤)、右側が水側(青)になるように取り付けてください。

湯側キャップ ねじ 水側キャップ ハンドル 取り付け

6 シャワースタンドの取り付け
シャワースタンドをフランジで固定します。

【△注意】フランジの締め付けは、専用工具G11(別売)で確実に行ってください。しっかり締め付けられていないと、シャワースタンドが緩んだり、がたつきが発生し、漏水して家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。

専用工具 G11(別売) 取り付け穴 シャワースタンド シートパッキン(白) 輪パッキン(黒) スリップ板 フランジ

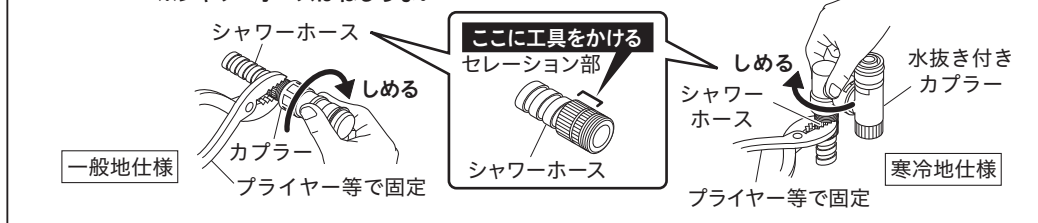
5 ページ

7 シャワーホースの接続

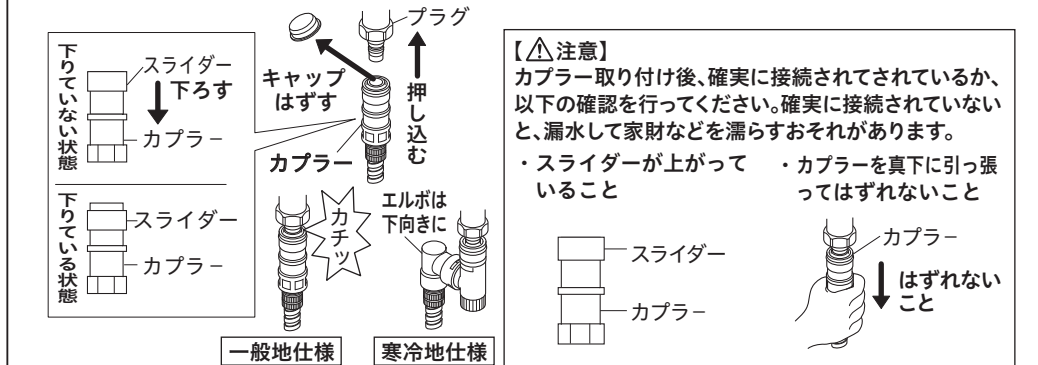
① (一般地仕様の場合)カプラーとシャワーホースの接続が緩んでいないか確認してください。緩んでいる場合はカプラーを手締め後、約30度増し締めしてください。(締め付けトルクの目安は約100N・cm)

(寒冷地仕様の場合)水抜き付きカプラーとシャワーホースを接続します。水抜き付きカプラーを手締め後、約30度増し締めしてください。(締め付けトルクの目安は約100N・cm)

【△注意】カプラー等の接続の際は、以下の内容に注意してください。
漏水で家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。
※カプラーの締め付け不足や締め付け過ぎ
※シャワーホースのセレーション部以外に工具をかけない
※シャワーホースはねじらない

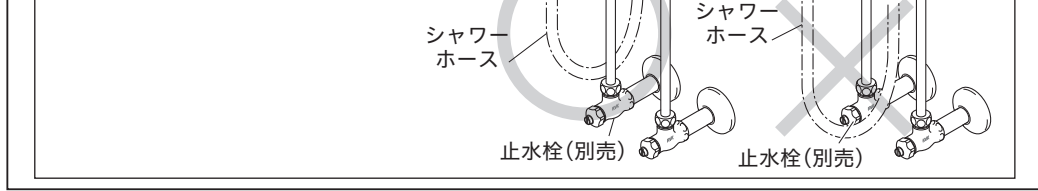


② カプラーのキャップをはずし、スライダーを下に下ろしてからプラグへカチッと音がするまではめ込みます。(寒冷地仕様の場合はエルボが下向きになっていることを確認します)取り付け後、カプラー(寒冷地仕様は水抜き付きカプラー)を引っばってはずれないことを確認します。



【△注意】カプラー取り付け後、確実に接続されているか、以下の確認を行ってください。確実に接続されていないと、漏水して家財などを濡らすおそれがあります。

- ・スライダーが上がってカプラーを真下に引っ張っていること
- ・カプラーを真下に引っ張ってはずれないこと



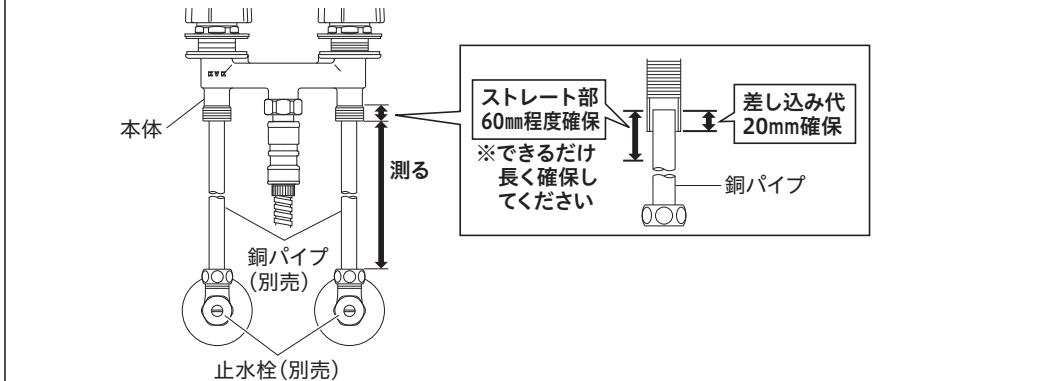
6 ページ

8 止水栓との接続

銅パイプ接続の場合

① 銅パイプ(別売)の必要な長さを測り、切断してください。このとき、ストレート部60mm程度・パイプの差し込み代は20mm確保してください。

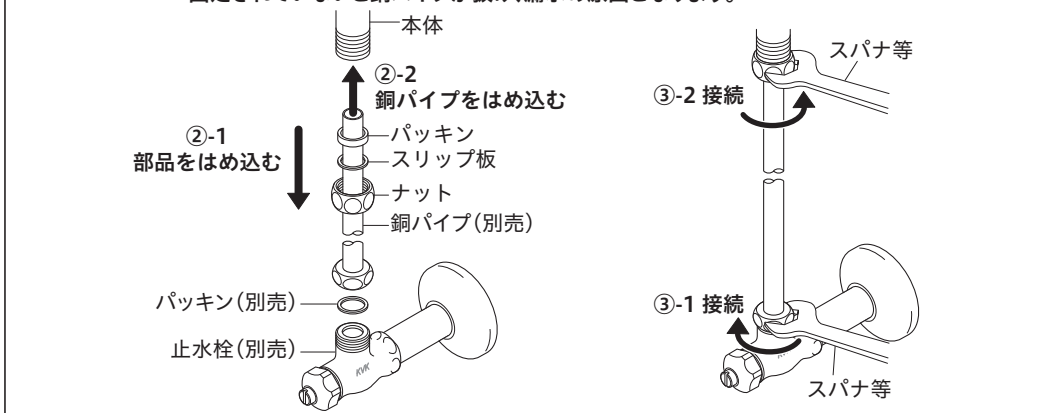
【お願い】銅パイプの切断はパイプカッターをご使用ください。
【△注意】銅パイプ切断および曲げ時に銅パイプストレート部には変形や傷などはないようにしてください。変形や傷などにより、漏水の原因となります。



② 銅パイプにナット、スリップ板、パッキンの順にはめ込んでから、銅パイプを本体にはめ込みます。
③ 銅パイプと止水栓を接続してから、銅パイプと本体を接続します。

【△注意】接続は適切な工具(スパナ等)で締め付けてください。締め付けトルクの目安は約2000N・cmです。締め付け不足や締め付け過ぎますと、漏水の原因となります。

- ・薄肉の接続管(ニップル等)には、銅パイプを接続しないでください。パッキンが切れ、漏水して家財などを濡らすおそれがあります。
- ・止水栓がしっかり固定されていることを確認してください。固定されていないと銅パイプが抜け、漏水の原因となります。



フレキ管接続の場合
フレキ管(別売)のナット部を本体と止水栓(別売)に接続します。
【△注意】接続は適切な工具(スパナ等)で締め付けてください。締め付けトルクの目安は約2000N・cmです。締め付け不足や締め付け過ぎますと、漏水の原因となります。

7 ページ

取り付け後の点検と清掃

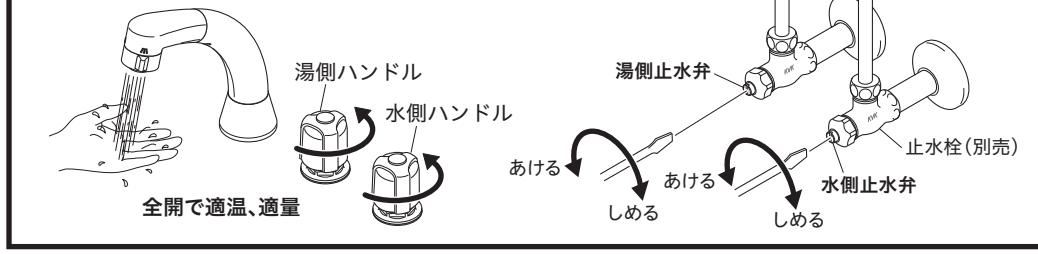
通水確認

【△注意】水栓を取り付け後、通水して湯水の出し止めを5~6回繰り返し、配管接続部及び水栓から水漏れがないことを確認してください。確認しないと、漏水で家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。

シャワーフェイス・ストレーナ・整流器清掃のお願い
シャワーヘッドのシャワーフェイス・ストレーナ・整流器にゴミ等が付きまると、吐水量が減ったり、きれいに流れなくなったりしますので、施工後必ず清掃してください。

➡ 取扱説明書「日常のお手入れ・保守」参照

湯温・流量調節
湯、水ハンドルが全開吐水で適温、適量になるように、止水弁で調節します。



故障かなと思ったら...

次のような現象は故障ではありません。修理を依頼される前にもう一度お確かめください。

➡ 取扱説明書「故障かなと思ったら...」参照

【△注意】修理技術者以外の方は水栓本体内部を分解しないでください。故障や水漏れの原因になります。

8 ページ